



【2017年8月21日～8月25日】

1. 先週の市場動向

【先週の市場の振り返り】

＜株式＞	先々週末 2017/8/18	先週末 2017/8/25	前週比
NYダウ（米国）	21,674.51	21,813.67	0.64%
日経平均株価（日本）	19,470.41	19,452.61	▲0.09%
DAX指数（ドイツ）	12,165.19	12,167.94	0.02%
FTSE指数（英国）	7,323.98	7,401.46	1.06%
上海総合指数（中国）	3,268.72	3,331.52	1.92%
香港ハンセン指数（中国）	27,047.57	27,848.16	2.96%
ASX指数（豪州）	5,747.11	5,743.86	▲0.06%
＜リート＞	先々週末	先週末	前週比
S&Pグローバルリート指数	180.06	181.70	0.91%
＜債券＞（利回り）（%）	先々週末	先週末	前週差
米国10年国債	2.194	2.166	▲0.028
日本10年国債	0.033	0.019	▲0.014
ドイツ10年国債	0.414	0.380	▲0.034
英国10年国債	1.090	1.053	▲0.037
＜為替＞	先々週末	先週末	前週比
ドル円	109.18	109.36	0.16%
ユーロ円	128.40	130.39	1.55%
ユーロドル	1.1761	1.1924	1.39%
豪ドル円	86.57	86.76	0.22%
＜商品＞	先々週末	先週末	前週比
商品（CRB指数）	177.50	177.83	0.19%
原油先物価格（WTI）	48.51	47.87	▲1.32%

＜株式＞

主要国の株式市場は、このところの米トランプ政権の混乱に加え、ジャクソンホールでのイエレン連邦準備制度理事会（FRB）議長とドラギ欧州中央銀行（ECB）総裁の講演を週末に控え、様子見気分の強い展開となりました。米国株式市場では、トランプ政権の混乱ぶりが続きましたが、税制改革が進むとの思惑もあり、週間で0.64%上昇しました。欧州株式市場では、DAX指数は、25日のドラギ総裁の講演を控えもみあいとなり、週間ではほぼ横ばいとなりました。英国のFTSE指数は1.06%上昇しました。日経平均株価は、トランプ政権の政治リスクなどから108円台となった円高などを嫌気しましたが、北朝鮮問題への警戒感が後退したことなどもあり、ほぼ横ばいとなりました。中国株式市場では、上海総合指数、香港ハンセン指数ともに上昇しました。

＜債券＞

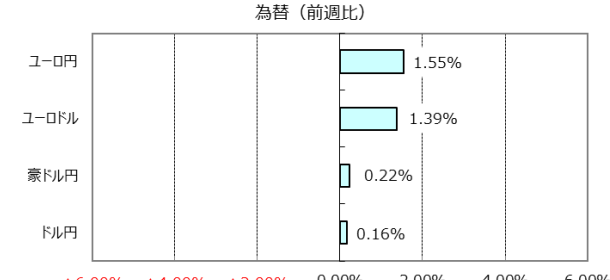
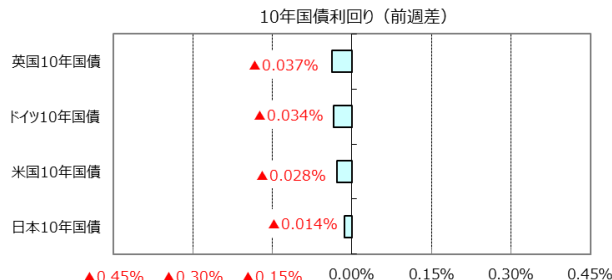
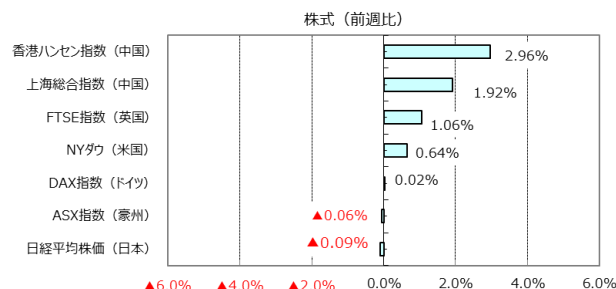
主要国の10年国債利回りは低下しました。米国の10年国債利回りは、トランプ大統領の「国境の壁建設予算獲得のためなら歳入法案可決の先延ばしも辞さない」との発言や週末の講演でイエレン議長が金融引き締めに関与しなかったことなどから、週間では0.028%低下しました。ドイツと英国の10年国債利回りは、米国の金利低下などを受けて低下しました。日本10年国債利回りも低下しました。

＜為替＞

円相場は対ドルでは北朝鮮問題への警戒感の後退が円安要因となる一方、トランプ大統領の政権運営への懸念が円高要因となり、108円後半から109円台後半で推移しました。週間ではほぼ横ばいとなりました。対ユーロではドラギ総裁がユーロ高への警戒を示さなかったことなどから1.55%の円安・ユーロ高となりました。

＜商品＞

原油先物価格（WTI）は、もみ合いながらも下落し小幅安の47.87ドルで引けました。



※利回りの低下は債券価格の上昇を表します。

※ユーロドルのプラス表示はユーロ高・ドル安。

（出所）Bloomberg L.P.のデータを基に三井住友アセットマネジメント作成



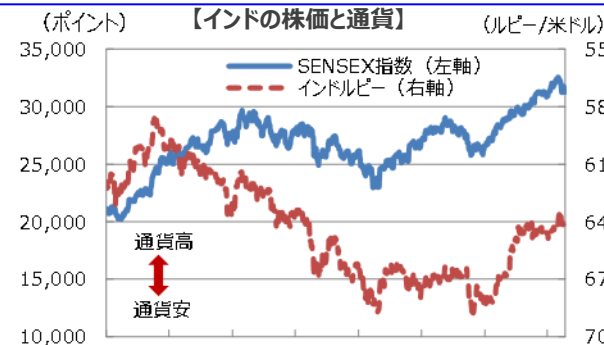
【2017年8月21日～8月25日】

2. 先週のマーケット・デیلیー/ウィークリー

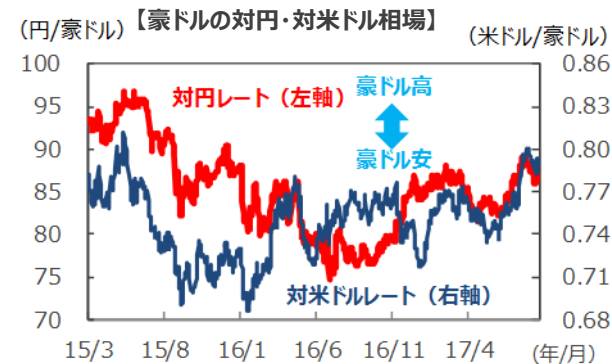
	テーマ	ポイント
8/21 (月)	先週のマーケットの振り返り	2017/8/14～8/18 マーケットの振り返り
8/21 (月)	米国地方債市場の動向 (2017年8月)	1. 良好なパフォーマンス、年初来では投資適格債を上回る 2. 相対的に高い利回りが魅力、国債を2%弱上回る地方債利回り
8/21 (月)	相対的に高い利回りを背景に、良好なパフォーマンス	3. 【地方債は堅調を維持しよう】 長期金利は当面のところレンジ内での推移となる見通しです。こうした状況を踏まえると、相対的に利回りの高い地方債市場への資金流入は継続する可能性が高いと見られます。
☆	インドの経済・市場動向 (2017年8月)	1. PMIが低下、GST導入の一時的影響 2. 金融政策は据え置きの見込み、インフレは6月を底に上昇
8/22 (火)	景気はしっかり、株式市場は堅調、通貨は安定	3. 【株式は堅調、通貨は安定推移が見込まれる】 世界の金融市場は米朝の緊張の高まりや米政権運営の不透明感で不安定な動きとなっていますが、インド経済に対する影響は限定的と考えられます。インド株式は堅調さを取り戻し、インドルピーは安定的に推移すると思われます。
☆	鉄鉱石・石炭の価格と豪ドルの動向 (2017年8月)	1. 鉄鉱石、石炭価格は底入れ、ともに上昇軌道へ 2. 中国の需要が拡大、在庫調整も緩やかに進展
8/23 (水)	需給改善で価格は堅調、豪ドル高の支援材料になろう	3. 【豪ドルは堅調に推移しよう】 豪ドルは①資源価格の持ち直し、②豪州の貿易収支改善、③日豪の金融政策の方向性の違い（豪州は中立姿勢維持の見通し、日本は緩和姿勢継続）等から、堅調に推移すると予想されます。
8/24 (木)	米国BDC（ビジネス・ディベロップメント・カンパニー）の動向 資金需要が旺盛な中小企業、発展が見込まれるBDC	1. 中小企業を金融面から支援、高利回りが特徴 2. 良好なパフォーマンス、相対的に高い利回りが魅力 3. 【今後も発展が見込まれる】 全米独立企業連盟が作成・公表している中小企業景況感指数は、昨年後半から大きく上昇しています。中小企業の資金需要が旺盛なことを示唆するものです。BDCを取り巻く環境は、今後も良好な状態が続くと予想されます。
8/25 (金)	米国経済と株式市場の見通し (2017年8月)	1. 不透明感が高まり株価下落、いずれ堅調な業績に焦点が当たろう 2. 緩やかな利上げ継続へ、景気は堅調、物価は低い水準で安定
8/25 (金)	景気や企業業績は好調、株価も徐々に堅調な展開へ	3. 【焦点は政治の停滞から業績に移り、株価は堅調な展開へ】 来年に中間選挙を控えていることを踏まえると、税制改革や公共投資といった政策は徐々に実現していくと考えられます。株式市場の焦点も政治から業績に移り、株価は堅調な展開に戻ると見られます。

☆先週の市場動向に関連する代表的な「グラフ・図表」

☆8/22 インドの経済・市場動向 (2017年8月)
景気はしっかり、株式市場は堅調、通貨は安定



☆8/23 鉄鉱石・石炭の価格と豪ドルの動向 (2017年8月)
需給改善で価格は堅調、豪ドル高の支援材料になろう



☆ は右の「グラフ・図表」を参照。



【2017年8月21日～8月25日】

3. 今週の主な注目材料

日付	米国	日本	欧州	アジア・オセアニア・その他
8/28 (月)			ユーロ圏7月マネーサプライ	
8/29 (火)	6月S&Pコアロジックケース・シラー住宅価格指数 8月消費者信頼感指数	7月失業率、有効求人倍率 7月家計調査	独9月GfK消費者信頼感 英8月ネーションワイド住宅価格	ブラジル8月FGVインフレIGPM
8/30 (水)		7月小売業販売額 7月小売売上高 7月百貨店・スーパー販売額	ユーロ圏8月景況感 独8月消費者物価指数 英7月マネーサプライ	
8/31 (木)	7月個人所得・消費支出 8月シカゴPMI	7月鉱工業生産☆ 7月自動車生産台数 7月住宅着工件数	ユーロ圏8月消費者物価指数☆ 独8月失業率 ユーロ圏7月失業率	中国8月製造業・非製造業PMI☆ インド4-6月期GDP
9/1 (金)	8月雇用統計☆ 8月マークイット製造業PMI 8月ISM製造業景況指数	4-6月期法人企業統計 8月消費者態度指数 8月自動車販売台数	ユーロ圏8月マークイット製造業PMI 英8月製造業PMI 独8月製造業PMI	中国8月Caixin製造業PMI ブラジル4-6月期GDP
☆ 今週の注目点	今後の金融政策を見る上で、8月雇用統計が注目されます。	景気動向を確認する上で、7月鉱工業生産が注目されます。	今後の金融政策を見る上で、ユーロ圏8月消費者物価指数が注目されます。	中国の今後の景気動向を確認する上で、中国8月製造業・非製造業PMIが注目されます。

※各経済指標・イベントは予定であり、変更されることがあります。

弊社マーケットレポート

検索!!

先週の注目の「マーケット・デیلیー」

2017年8月23日 鉄鉱石・石炭の価格と豪ドルの動向（2017年8月）【デیلیー】

2017年8月22日 インドの経済・市場動向（2017年8月）【デیلیー】

先週の「マーケット・ウィークリー」

2017年8月21日 先週のマーケットの振り返り（2017/8/14-8/18）【ウィークリー】

先月の「マーケット・マンスリー」

2017年8月2日 先月のマーケットの振り返り（2017年7月）【マンスリー】

先週の注目の「マーケット・キーワード」

2017年8月25日 『健康寿命』と「平均寿命」の重要な差 【キーワード】



【2017年8月21日～8月25日】

【重要な注意事項】

【投資信託商品についてのご注意（リスク、費用）】

●投資信託に係るリスクについて

投資信託の基準価額は、投資信託に組み入れられる有価証券の値動き等（外貨建資産には為替変動もあります。）の影響により上下します。**基準価額の下落により損失を被り、投資元本を割り込む**ことがあります。

運用の結果として投資信託に生じた**利益および損失は、すべて受益者に帰属**します。したがって、投資信託は**預貯金とは異なり、投資元本が保証されているものではなく**、一定の投資成果を保証するものでもありません。

●投資信託に係る費用について

ご投資いただくお客さまには以下の費用をご負担いただきます。

◆直接ご負担いただく費用 … 申込手数料 上限3.78%（税込）

… 換金（解約）手数料 上限1.08%（税込）

… 信託財産留保額 上限3.00%

◆投資信託の保有期間中に間接的にご負担いただく費用 … 信託報酬 上限年 3.834%（税込）

◆その他費用 … 監査費用、有価証券の売買時の手数料、デリバティブ取引等に要する費用（それらにかかる消費税等相当額を含みます。）、および外国における資産の保管等に要する費用等が信託財産から支払われます。また、投資信託によっては成功報酬が定められており当該成功報酬が信託財産から支払われます。投資信託証券を組み入れる場合には、お客さまが間接的に支払う費用として、当該投資信託の資産から支払われる運用報酬、投資資産の取引費用等が発生します。これらの費用等に関しましては、その時々取引内容等により金額が決定し、運用の状況により変化するため、あらかじめその上限額、計算方法等を具体的に記載できません。

※なお、お客さまにご負担いただく上記費用等の合計額、その上限額および計算方法等は、お客さまの保有期間に応じて異なる等の理由によりあらかじめ具体的に記載することはできません。

上記に記載しているリスクや費用項目につきましては、一般的な投資信託を想定しております。費用の料率につきましては、三井住友アセットマネジメントが運用するすべての投資信託における、それぞれの費用の最高の料率を記載しております。投資信託に係るリスクや費用は、それぞれの投資信託により異なりますので、ご投資をされる際には、販売会社よりお渡しする投資信託説明書（交付目論見書）や契約締結前交付書面等を事前に必ずご覧ください。

●投資信託は、預貯金や保険契約と異なり、預金保険・貯金保険・保険契約者保護機構の保護の対象ではありません。また登録金融機関でご購入の場合、投資者保護基金の支払対象とはなりません。

●投資信託は、クローズド期間、国内外の休祭日の取扱い等により、換金等ができないことがありますのでご注意ください。

〔2017年5月31日現在〕

三井住友アセットマネジメント株式会社

金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第399号

加入協会：一般社団法人 投資信託協会、一般社団法人 日本投資顧問業協会、一般社団法人 第二種金融商品取引業協会

■当資料は、情報提供を目的として、三井住友アセットマネジメントが作成したものです。特定の投資信託、生命保険、株式、債券等の売買を推奨・勧誘するものではありません。■当資料に基づいて取られた投資行動の結果については、当社は責任を負いません。■当資料の内容は作成基準日現在のものであり、将来予告なく変更されることがあります。■当資料に市場環境等についてのデータ・分析等が含まれる場合、それらは過去の実績及び将来の予想であり、今後の市場環境等を保証するものではありません。■当資料は当社が信頼性が高いと判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。■当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらの知的所有権その他の一切の権利は、その発行者および許諾者に帰属します。■当資料に掲載されている写真がある場合、写真はイメージであり、本文とは関係ない場合があります。